

科目名	緩和ケア特論 Topics in Palliative Care
授業形態	講義(レクチャーと討論)
標準履修年次	1年次
実施学期・曜時限等	秋AB学期 水曜1時限、金曜2時限
実施場所	共同利用棟B 204
単位数	2単位
担当教員名	水野道代 Mizuno Michiyo 山下美智代 Yamashita Michiyo 牟田理恵子 Muta Rieko
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	随時(メールで予定を確認の上訪問すること)
授業の到達目標 (学習成果)	1 がん患者に頻繁に見られる苦痛症状の発生機序、治療法を理解できる。 2 緩和ケアを必要とする患者のトータルペインをアセスメントし、トータルペインに関連する看護上の問題をあげることができる。 3 がんによる苦痛症状が患者の身体面、心理面、社会面に及ぼす影響と、その看護援助につて要点をまとめて述べることができる。 4 コミュニケーションに関連する臨床問題の具体例をとりあげ、その解決方法について根拠を示しながら例示することができる。 5 複雑な心理社会的問題を抱えるがん患者の臨床判断過程を提示し、具体的な解決方法について根拠を示しながら例示することができる。 6 緩和ケアの臨床で活用可能なリソースの活用方法とその効果について根拠を示しながら紹介することができる。 7 緩和ケアの臨床において用いられる援助例につて、対象が抱えるトータルペインの理解、キュアとケアの統合性、エビデンスの信頼性・妥当性という視点からクリティークし、その結果を言語化し発表することができる。
他の授業科目との関連	
履修条件	履修要件はないが、※はがん臨床指導者プログラムのeラーニングによる授業であるため、視聴に必要な手続きをと
授業概要	がん患者に頻繁に見られる苦痛症状をマネジメントする上で必要な医学的知識を習得し、それらの苦痛症状が患者の身体面、心理面、社会面に及ぼす影響を理解するとともに、症状マネジメントに必要な看護援助を探索する。さらに、がんがもたらすあらゆる苦痛症状および苦悩を包括的に理解したうえで、エビデンスに基づいてキュアとケアを統合し、適切に援助を提供する方法を考察し、実践能力を養う。
キーワード	緩和ケア Palliative care、症状管理 Symptom Management、資源 Resource
授業計画	1 緩和ケアにおける看護の役割・機能 ※(牟田理恵子) 苦痛症状の理解と管理1(疼痛)※ (田口奈津子) 苦痛症状の理解と管理2(消化器系症状)※ (坂下美彦) 苦痛症状の理解と管理3(呼吸器系症状)※ (奈良林至) 2 苦痛症状の理解と管理4(腎・尿路系症状)※ (三浦剛史) 5 苦痛症状の理解と管理6(神経系)※ (田口奈津子) 苦痛症状の理解と管理7(胸水・腹水・心嚢水)※ (田口奈津子) 苦痛症状の理解と管理8(腫瘍学的緊急症)※ (奈良林至) 10 苦痛症状の理解と管理9(皮膚の問題、悪液質、その他)※ (田口奈津子) 苦痛症状の理解と管理10(せん妄)※ (大西秀樹) 苦痛症状の理解と管理11(緩和困難な症状への対応)※ (林章敏) 鎮痛薬および鎮痛補助薬 ※ (田口奈津子) 11 (11月13日)緩和ケアにおける臨床判断と症状管理に関するエビデンス検索の方法(水野) 12 緩和ケアを必要とする患者・家族とのコミュニケーション①※ 緩和ケアを必要とする患者・家族とのコミュニケーションの特徴や課題、コミュニケーションが治療やケアに及ぼす影響について理解する。コミュニケーションが困難な事例を作成し、効果的なコミュニケーションの方法について討議する。(牟田) 13 (11/20)緩和ケアを必要とする患者・家族とのコミュニケーション② 14 (11/22)緩和ケアを必要とする患者・家族とのコミュニケーション③ 15 緩和ケアにおける心理社会的支援①※ 緩和ケアを必要とする患者・家族が直面する心理社会的問題について理解するとともに、その効果的な支援方法について討議する。(山下) 16 (12月6日)緩和ケアにおける心理社会的支援② 17 (12月11日)緩和ケアにおける心理社会的支援③ 18 緩和ケア介入におけるリソース活用法①※ e-ラーニングで理学療法的介入をはじめとする包括的な介入について学んだ後、その他の利用可能なリソースとその活用方法について探求した結果を発表し、理解を深める活用方法を討議する。(水野) 19 (12月20日)緩和ケア介入におけるリソース活用法② 20 (12月20日)緩和ケア介入におけるリソース活用法③ ※2~10コマは、11コマのうち、自分の学習に必要と思われるものを9コマ以上視聴すること。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義(%) 看護に重要な点を適切にとらえ、必要な箇所は十分に理解できるまで何度も繰り返し聴講する。疑問を感じている項目について、積極的に教科書を調べたりすることにより、理解を深める。
成績評価方法	指定された講義のコマ数を100%聴講済みとし(各コマの小テストにすべて回答していることを必要とする)、かつ行動目標の1~6を指導に従って大旨できればC以上と判断する。行動目標1~6については、e-ラーニング講義を聴講後、各コマの重要点をそれぞれ10項目以上取り出し、各項目に対する簡潔な解説を加えたレポートの提出、かつ発表と討論状況および各授業での作成資料を元に、理解度を判定する。行動目標の1~6について優れていると判断され、7を指導に従って大旨できると判断されればA以上と判定する。
教材・参考文献・配布資料等	(教科書)指定しない。 (参考書)適宜提示する。
その他(受講生にのぞむことや 受講上の注意点等)	科目受講前に、科目責任者らによる受講ガイダンスを受けること。